

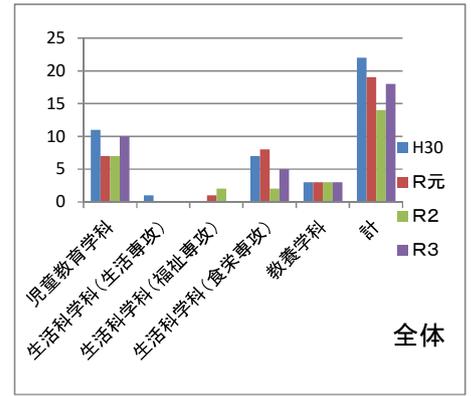
中途退学者数推移 (H30~R3)

全体

	H30	R元	R2	R3	
児童教育学科	11	7	7	10	
生活科学科(生活専攻)	1	/	/	/	
生活科学科(福祉専攻)	0	1	2	0	
生活科学科(食栄専攻)	7	8	2	5	
教養学科	3	3	3	3	
計	22	19	14	18	
5 在 籍 者 数 (5月1日)	J	440	391	390	387
	S(生活)	15	/	/	/
	S(福祉)	29	27	18	19
	S(食栄)	148	111	83	105
	C	166	155	132	152
	計	798	684	623	663

全体

	H30	R元	R2	R3
児教	2.5%	1.8%	1.8%	2.6%
生活(生活専攻)	6.7%	/	/	/
生活(福祉専攻)	0.0%	3.7%	11.1%	0.0%
生活(食栄専攻)	4.7%	7.2%	2.4%	4.8%
教養	1.8%	1.9%	2.3%	2.0%
計	2.8%	2.8%	2.2%	2.7%

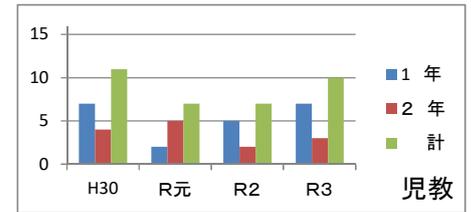


児童教育学科

	H30	R元	R2	R3	
1年	7	2	5	7	
2年	4	5	2	3	
計	11	7	7	10	
在籍者数 (5月1日)	1年	200	199	189	199
	2年	240	192	201	188
	計	440	391	390	387

児童教育学科

	H30	R元	R2	R3
1年	3.5%	1.0%	2.6%	3.5%
2年	1.7%	2.6%	1.0%	1.6%
計	2.5%	1.8%	1.8%	2.6%

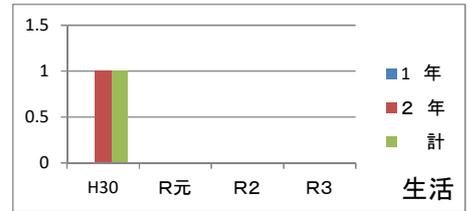


生活科学科[生活]

	H30	R元	R2	R3
1年	/	/	/	/
2年	1	/	/	/
計	1	/	/	/
在籍者数 (5月1日)	1年	/	/	/
	2年	15	/	/
	計	15	/	/

生活科学科[生活]

	H30	R元	R2	R3
1年	/	/	/	/
2年	6.7%	/	/	/
計	6.7%	/	/	/

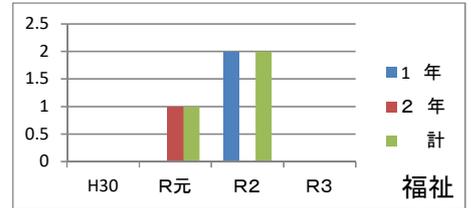


生活科学科[福祉]

	H30	R元	R2	R3	
1年	0	0	2	0	
2年	0	1	0	0	
計	0	1	2	0	
在籍者数 (5月1日)	1年	15	10	8	12
	2年	14	17	10	7
	計	29	27	18	19

生活科学科[福祉]

	H30	R元	R2	R3
1年	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%
2年	0.0%	5.9%	0.0%	0.0%
計	0.0%	3.7%	11.1%	0.0%

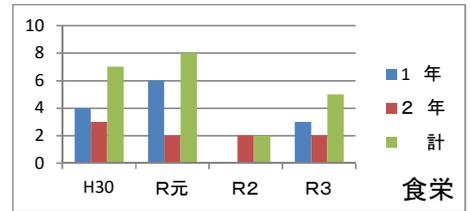


生活科学科[食栄]

	H30	R元	R2	R3	
1年	4	6	0	3	
2年	3	2	2	2	
計	7	8	2	5	
在籍者数 (5月1日)	1年	68	46	40	61
	2年	80	65	43	44
	計	148	111	83	105

生活科学科[食栄]

	H30	R元	R2	R3
1年	5.9%	13.0%	0.0%	4.9%
2年	3.7%	3.1%	4.6%	4.5%
計	4.7%	7.2%	2.4%	4.8%

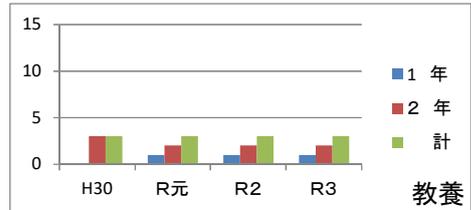


教養学科

	H30	R元	R2	R3	
1年	0	1	1	1	
2年	3	2	2	2	
計	3	3	3	3	
在籍者数 (5月1日)	1年	83	67	63	91
	2年	83	88	69	61
	計	166	155	132	152

教養学科

	H30	R元	R2	R3
1年	0.0%	1.5%	1.6%	1.1%
2年	3.6%	2.3%	2.9%	3.3%
計	1.8%	1.9%	2.3%	2.0%

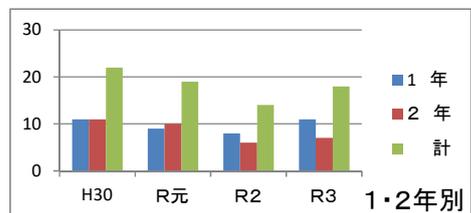


1年・2年別計

	H30	R元	R2	R3	
1年	11	9	8	11	
2年	11	10	6	7	
計	22	19	14	18	
在籍者数 (5月1日)	1年	366	322	300	363
	2年	432	362	323	300
	計	798	684	623	663

1年・2年別計

	H30	R元	R2	R3
1年	3.0%	2.8%	2.7%	3.0%
2年	2.5%	2.8%	1.9%	2.3%
計	2.8%	2.8%	2.2%	2.7%



中途退学事由

全体

退学事由		H30		R元		R2		R3	
		1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生
ア	就学意欲の低下	2	2	1		1		6	2
イ	進路変更(進学・転学・編入)	2	1		2			3	2
ウ	進路変更(就職)	3	2	6	2	2	2		2
エ	経済的困窮	2	2	1	3	2	2		1
オ	学力不足								
カ	身体疾患								
キ	心身耗弱	1	3		1	3	2	2	
ク	海外留学								
ケ	その他	1	1	1	2				
計		11	11	9	10	8	6	11	7

児童教育学科

退学事由		H30		R元		R2		R3	
		1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生
ア	就学意欲の低下	1				1		4	
イ	進路変更(進学・転学・編入)	1			1			1	2
ウ	進路変更(就職)	2	1	1	1	1			1
エ	経済的困窮	1	2	1	1	1	2		
オ	学力不足								
カ	身体疾患								
キ	心身耗弱	1			1	2		2	
ク	海外留学								
ケ	その他	1	1		1				
計		7	4	2	5	5	2	7	3

生活専攻

退学事由		H30		R元		R2		R3	
		1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生
ア	就学意欲の低下		1						
イ	進路変更(進学・転学・編入)								
ウ	進路変更(就職)								
エ	経済的困窮								
オ	学力不足								
カ	身体疾患								
キ	心身耗弱								
ク	海外留学								
ケ	その他								
計			1						

福祉専攻

退学事由		H30		R元		R2		R3	
		1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生
ア	就学意欲の低下								
イ	進路変更(進学・転学・編入)								
ウ	進路変更(就職)				1	1			
エ	経済的困窮					1			
オ	学力不足								
カ	身体疾患								
キ	心身耗弱								
ク	海外留学								
ケ	その他								
計		0	0	0	1	2	0	0	0

食栄専攻

退学事由		H30		R元		R2		R3	
		1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生
ア	就学意欲の低下	1	1	1				2	1
イ	進路変更(進学・転学・編入)	1			1			1	
ウ	進路変更(就職)	1	1	4					
エ	経済的困窮	1			1				1
オ	学力不足								
カ	身体疾患								
キ	心身耗弱		1				2		
ク	海外留学								
ケ	その他			1					
計		4	3	6	2	0	2	3	2

教養学科

退学事由		H30		R元		R2		R3	
		1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生
ア	就学意欲の低下								1
イ	進路変更(進学・転学・編入)		1					1	
ウ	進路変更(就職)			1			2		1
エ	経済的困窮				1				
オ	学力不足								
カ	身体疾患								
キ	心身耗弱		2			1			
ク	海外留学								
ケ	その他				1				
計		0	3	1	2	1	2	1	2

中途退学者の原因分析に対するR3年度の学科の対応策（R3年7月教授会に報告）			学科のR3年度対応策に対する実施状況及びその結果	令和4年度の対応策(案) (前年度結果及びR3年度の退学者状況を踏まえて)
退学事由		R3年度の対応策等		
ア. 修学意欲の低下	【見教】	・入学時のオリエンテーションと入学後はキャリアガイダンス等を通しての学習への明確な動機づけや将来を見据えた履修計画などを、指導教員と科目担当者が連携することで学習意欲を維持できるよう取り組む。	【見教】 ・入学時のオリエンテーションと同じ週のキャリアガイダンス等を通して、学習への明確な動機づけや将来を見据えた履修計画などを、指導教員と科目担当者が連携することで学習意欲を維持できるよう取り組んだが、コロナ禍も影響してか就学意欲の低下を防ぎきれない状況があった。 【福祉】 ・R3年度対応策_福祉該当なし 【食栄】 ・専攻内の支援体制を整え、心配な学生や、学生が困っている事等を共有し、解決に努めた(レポート負担の軽減、授業速度等)。しかし、3名の退学者が生じた。 ・教育課程やカリキュラムの見直し、関連科目間での調整等を行ったが、引き続きその効果を検証していく必要がある。 【教養】 ・R3年度対応策_教養該当なし	【見教】 ・今後もキャリアガイダンスや各教科内で、指導教員と科目担当者が連携しながら学習意欲を維持できるよう取り組む。 【福祉】 ・引き続き、指導教員を中心に、学生に必要な相談、指導支援を実施する。 【食栄】 ・導入教育や1, 2年生の交流の時間、体験学習プログラム等を積極的に取り入れ、栄養士としての職業観をはぐくみ、学習に対するモチベーションを上げていく。 ・指導教員を中心に学生の状況把握に努め、専攻内で情報共有し連携して支援する。 【教養】 ・就学意欲が維持されるよう、教員間で情報共有をしながら必要な対策を講じる。
	【食栄】	・教育課程やカリキュラムの見直しを図りつつ、これまでの対応策を継続して取り組む。		
イ. 進路変更 (進学・転学・編入)	【見教】	・入学時のオリエンテーションと入学後のキャリアガイダンス等を通した学習への明確な動機づけや、将来を見据えた履修計画などを、指導教員と科目担当者が連携することで学習意欲を維持できるよう取り組む。	【見教】 ・入学時のオリエンテーションと入学後のキャリアガイダンス等を通した学習への明確な動機づけや、将来を見据えた履修計画などを、指導教員と科目担当者が連携することで学習意欲を維持できるよう取り組んだが、当該学生が相談に来た際には既に進路変更の意思を固めて訪ねることが多く、進路変更の意思を変えることには繋げられなかった。 【福祉】 ・R3年度対応策_福祉該当なし 【食栄】 ・ミスマッチ入学を避けるために、オープンキャンパスで体験講座やミニ実験講座を加えたり、学生のコメントを掲示し、専攻の学習内容等を知ってもらうようにしたが、訓練生1名が進学希望を事由に退学に至った。 ・教育課程やカリキュラムの見直し、関連科目間での調整等を行ったが、引き続きその効果を検証していく必要がある。 【教養】 ・R3年度対応策_教養該当なし	【見教】 ・今後もキャリアガイダンスや各教科内で、指導教員と科目担当者が連携しながら学習意欲を維持できるよう取り組む。 【福祉】 ・引き続き、指導教員を中心に、学生に必要な相談、指導支援を実施する。 【食栄】 ・高校連絡会、出前講義、オープンキャンパス等で、専攻の教育内容や特色、就職についての情報提供や、将来プランを提案し、ミスマッチ入学を防ぐ。 ・導入教育や1, 2年生の交流の時間、体験学習プログラムを積極的に取り入れ、栄養士としての職業観をはぐくみ、学習に対するモチベーションを上げていく。 ・指導教員を中心に学生の状況把握に努め、専攻内で情報共有し連携して支援する。 【教養】 ・教養学科に所属しながら進路を模索するなかで卒業前に希望する進路を見つけられた学生に対しては、担任を中心に適切な支援を行う。
	【食栄】	・教育課程やカリキュラムの見直しを図りつつ、これまでの対応策を継続して取り組む。 ・オープンキャンパス等で専攻の教育活動の内容や特色について情報提供し、ミスマッチ入学を防ぐ。		
ウ. 進路変更(就職)	【見教】	・入学時のオリエンテーションと入学後のキャリアガイダンス等を通した学習への明確な動機づけや、将来を見据えた履修計画などの確認を行い、必要時は本人にとって望ましい進路を決められるように支援する。	【見教】 ・入学時のオリエンテーションと入学後のキャリアガイダンス等を通した学習への明確な動機づけや、将来を見据えた履修計画などを、指導教員と科目担当者が連携することで学習意欲を維持できるよう取り組んだが、当該学生が相談に来た際には既に進路変更の意思を固めて訪ねることが多く、進路変更の意思を変えることには繋げられなかった。 【福祉】 ・学生の修学意欲や履修状況を確認しながら、指導を行った。結果、中途退学者はでなかった。 【食栄】 ・ミスマッチ入学を避けるために、オープンキャンパスで体験講座やミニ実験講座を加えたり、学生のコメントを掲示し、専攻の学習内容等を知ってもらうようにした。結果、本事由による退学者はいなかった。 ・教育課程やカリキュラムの見直し、関連科目間での調整等を行ったが、引き続きその効果を検証していく必要がある。	【見教】 ・今後もキャリアガイダンスや各教科内で、指導教員と科目担当者が連携しながら学習意欲を維持できるよう取り組む。必要時は本人にとって望ましい進路を決められるように支援する。 【福祉】 ・引き続き、指導教員を中心に、学生に必要な相談、指導支援を実施する。 【食栄】 ・高校連絡会、出前講義、オープンキャンパス等で、専攻の教育内容や特色、就職についての情報提供や、将来プランを提案し、ミスマッチ入学を防ぐ。 ・導入教育や1, 2年生の交流の時間、体験学習プログラム等を積極的に取り入れ、栄養士としての職業観をはぐくみ、学習に対するモチベーションを上げていく。 ・指導教員を中心に学生の状況把握に努め、専攻内で情報共有し連携して支援する。 【教養】 ・教養学科に所属しながら進路を模索するなかで卒業前に希望する進路を見つけられた学生に対しては、担任を中心に適切な支援を行う。
	【生活福祉】	・指導教員を中心とし学生及び保護者(特に留学生は、場合により奨学金貸付施設)ともコンタクトを密に取りながらなど十分に話し合いを行い、最良の進路を決められるように支援する。また、留学生に対しては、学生生活の過ごし方の事前指導、施設奨学金の契約内容の確認を行う。		
	【食栄】	・教育課程やカリキュラムの見直しを図りつつ、これまでの対応策を継続して取り組む。 ・オープンキャンパス等で専攻の教育活動の内容や特色について情報提供し、ミスマッチ入学を防ぐ。		
	【教養】	・本学や本学科の特徴が退学理由に結びついたわけではないため、特になし。	【教養】 ・本学や本学科の特徴が退学理由に結びついたものではないが、学生の進路希望に添えるよう担任を中心に適切な相談を行った。	

エ.	経済的困窮	【児教】	・学生支援課と連携し各種経済的支援制度の利用等を勧め、修学継続に繋がるよう支援する。	【児教】 ・R3年度は該当者はいなかった	【児教】 ・学生支援課と連携し各種経済的支援制度の利用等を勧め、修学継続に繋がるよう支援する。
		【食栄】	・引き続き、学生支援課等の協力を得て奨学金制度の利用等を勧め、個々に応じた修学継続が可能な方策について紹介し、学業が継続できるよう支援する。	【福祉】 ・R3年度対応策_福祉該当なし	【福祉】 ・引き続き、指導教員を中心に、学生に必要な相談、指導支援を実施する。
オ.	学力不足	【児教】	・科目担当者の支援に加えて、今年度から始まった修学タイムの利用を勧めるなど、学修を支援するとともに、個人情報保護に配慮した上で教員間で配慮の必要な学生情報を共有して対応する。	【児教】 ・R3年度は該当者はいなかった。	【児教】 ・科目担当者の支援に加えて、昨年度から始まった修学タイムの利用を勧めるなど、学修を支援するとともに、個人情報保護に配慮した上で教員間で配慮の必要な学生情報を共有して対応する。
		【食栄】	・引き続き、個々の学習状況について専攻内で情報を共有し、学習支援員の協力を得ながら、各科目で適切に支援する。 ・単位取得状況に応じ、進路・学習指導、履修指導を行う。	【福祉】 ・R3年度対応策_福祉該当なし	【福祉】 ・引き続き、指導教員を中心に、学生に必要な相談、指導支援を実施する。
カ.	身体疾患	【児教】	・指導教員を中心に、保健室や保健管理委員会と連携して、修学を継続できる環境を整え支援する。	【食栄】 ・単位習得状況が思わしくない学生や、GPAが低い学生等を中心に、専攻で学習支援の場を週1回設けた。気軽に教員に質問できるような環境を整えたこと等もあり、本事由による退学者はいなかった。	【食栄】 ・個々の学習状況について専攻内で情報を共有し、学習支援員の協力を得ながら、各科目で適切に支援する。 ・学習支援の時間を週1回程設け、教員に気軽に質問や相談できる環境を整える。
		【食栄】	・これまでの対応策を継続して取り組み、保健室や保健管理委員会と連携しながら適切な対応を図る。	【教養】 ・R3年度対応策_教養該当なし	【教養】 ・学生の学力および学習状況について教員間で情報共有をしながら適切な支援を行う。
キ.	心身耗弱	【児教】	・入学前から健康上の問題を抱えている学生もいることから、引き続き保健室や保健管理委員会と連携しながら、適切な対応が図れるよう教員間で情報を共有し対応する。また、遠隔地から進学してきた学生には、特にきめ細かい支援や声掛けを行う。	【児教】 ・R3年度は該当者はいなかった。	【児教】 ・指導教員を中心に、保健室や保健管理委員会と連携して、修学を継続できる環境を整え支援する。
		【食栄】	・これまでの対応策を継続して取り組み、保健室や保健管理委員会と連携しながら適切な対応を図る。	【福祉】 ・R3年度対応策_福祉該当なし	【福祉】 ・引き続き、指導教員を中心に、学生に必要な相談、指導支援を実施する。
		【教養】	・コロナ禍である等の環境の不安定さが心身の不調に繋がった。これまで同様に保健室や相談室との連携を継続する。	【食栄】 ・問題を抱えた学生に対して、専攻内で情報を共有し、保健室や保健管理委員会と連携して支援に努めたが、授業料未納により1名が除籍となった。	【食栄】 ・保健室や保健管理委員会と連携し、専攻内で情報共有し支援する。
ク.	海外留学		【教養】 ・必要に応じて保健室や相談室との連携を図り、教員間での情報共有も行い令和3年度は対象者がいなかった。	【教養】 ・R3年度対応策_教養該当なし	【教養】 ・保健室や相談室、保健管理委員会と連携しながら適切な支援を行う。
ケ.	その他	【児教】	・それぞれの退学事由に即して真摯に対応・支援し、退学者減へ向けて努力する。	【教養】 ・R3年度対応策_教養該当なし	【教養】 ・該当者が出た場合は、学生の相談に応じながら適切に対応する。
		【生活福祉】	・指導教員が中心となり、学生の困り事について随時相談に応じることができるよう環境づくりに努め、学生の不安軽減に繋げる。また、施設奨学金制度利用の留学生に対しては、事前に契約内容の確認を行う。	【児教】 ・R3年度は該当者はいなかった。	【児教】 ・それぞれの退学事由に即して真摯に対応・支援し、退学者減へ向けて努力する。
		【食栄】	・いつでも気軽に相談できる環境づくりに努め、学生、保護者の支援に繋げる。	【福祉】 ・留学生の支援は、入学前から学生支援課と連携を取りながら指導を行うようにしている。結果、中途退学者はでなかった。	【福祉】 ・引き続き、指導教員を中心に、学生に必要な相談、指導支援を実施する。
			【食栄】 ・週1回、学生が自由に参加できる学習支援の時間を設け、学習内容の質問のみならず、学生生活全般に関する相談ができる環境を整え、学生支援の充実を図った。教員側も学生と対話する時間をもてた。	【食栄】 ・学生生活全般(レポート、課題、人間関係等)に関して相談できる環境を整え、学生支援の充実を図った。	【食栄】 ・学生生活全般(レポート、課題、人間関係等)に関して相談できる環境を整え、学生支援の充実を図る。
			【教養】 ・R3年度対応策_教養該当なし	【教養】 ・該当する事項について、学生の相談に応じながら適切に対応する。	【教養】 ・該当する事項について、学生の相談に応じながら適切に対応する。